

製品名: LIFR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13304**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	LIFR
別名	LIFR; Leukemia inhibitory factor receptor; LIF receptor; LIF-R; CD118
遺伝子 ID	3977.0
SwissProt ID	P42702
免疫原	抗血清は、ヒト LIFR の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 731-780

背景

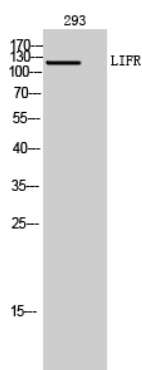
白血病阻害因子受容体 α (LIFR) Homo sapiens この遺伝子は、I型サイトカイン受容体ファミリーに属するタンパク質をコードしてい

ます。このタンパク質は、高親和性コンバーターサブユニット gp130 と結合して、成人および胎児における細胞の分化、増殖、生存に関与する多機能性サイトカインである白血病阻害因子の作用を媒介する受容体複合体を形成します。この遺伝子の変異は、彎曲骨異形成症のグループに属する疾患であるシュワルツ・ヤンペル症候群 2 型を引き起こします。この遺伝子のプロモーター t(5;8) (p13;q12) と多形腺腫遺伝子 1 の転座は、唾液腺の良性上皮性腫瘍の一般的なタイプである唾液腺多形腺腫と関連しています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数のスプライスバリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], 疾患: LIFR に関連する染色体転座は、唾液腺多形腺腫 (PA) [181030] の原因となる可能性があります。多形腺腫は、唾液腺で最も一般的な良性上皮性腫瘍です。PLAG1 との転座 t(5;8)(p13;q12)。, 疾患: LIFR の欠陥は、Stueve-Wiedemann 症候群 (SWS) [MIM:601559] の原因です。SWS は、Schwartz-Jampel 症候群 2 型または SJS2 と呼ばれる、重度の常染色体劣性疾患であり、彎曲骨異形成症のグループに属します。SWS は、下肢の彎曲、内部皮質肥厚、異常な骨梁パターンを伴う幅広い骨幹端、屈指症を特徴とする。その他の特徴として、摂食・嚥下困難、呼吸窮迫、高体温発作などが挙げられ、生後数ヶ月以内に死亡に至る。稀に生存する症例でも、進行性側弯症、自然骨折、下肢の彎曲、突出した関節、体温不安定、角膜反射および膝蓋反射消失、滑舌などの自律神経失調症の症状が現れる。 , domain: ボックス 1 モチーフは、JAK との相互作用および/または活性化に必要である。 , domain: WSXWS モチーフは、適切なタンパク質フォールディング、ひいては効率的な細胞内輸送および細胞表面受容体結合に必要であると考えられる。 , function: シグナル伝達分子。IL6ST と共通経路を有する可能性がある。可溶性形態は、標的細胞上の受容体への LIF の結合を阻害することで、LIF の生物学的活性を阻害する。 , 類似性: I 型サイトカイン受容体ファミリーに属する。タイプ 2 サブファミリー。 , 類似性: 6 つのタイプ III フィブロネクチンドメインを含む。 , サブユニット: LIFR と IL6ST からなるヘテロダイマー。LIFR と IL6ST によって形成されるヘテロダイマーは、CNTF と CNTFR によって形成される複合体と相互作用する。 ,

研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用; Jak_STAT;

画像データ



LIFR ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。